

令和 3 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホーム ポランの広場いなせ

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500105		
法人名	株式会社 文化タクシー		
事業所名	グループホーム ポランの広場いなせ		
所在地	〒023-1132 岩手県奥州市江刺稲瀬水先629		
自己評価作成日	令和3年10月4日	評価結果市町村受理日	令和3年12月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2011年2月1日認知症対応型共同生活介護施設と小規模多機能型居宅介護施設を併設し江刺稲瀬地区に開設、今年で10年目のグループホームポランの広場いなせという介護事業所です。ポランの広場とは宮沢賢治の幻想豊かな童話の中にある「皆が元気で自分らしく楽しめる広場」明日への活力を養う事が出来る理想郷という内容です。その理想郷を目標にする為、宮沢家様より著作物の使用許可を得て命名致しました。今年で10周年の節目にあたりますが、以前として理想郷にはほど遠くまだまだ教育、研修、会議などを重ね利用者様に安心して生活できる場を提供したいと考えています。家族様は定期的に通院等の為、来所される事がありその際に利用者様の日頃の状態などや施設からのお願い等、居室担当をはじめ職員より伝え協力をして頂いています。新型コロナウイルス感染症の流行に歯止めがかからない状況です。私達職員は各自、感染症対策に取り組み「ウイルスに感染しない、ウイルスを施設に持ち込まない」を合言葉に掲げ今まで以上に気を引き締めて参りたいと考えて行動しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、北上川が近くを流れる奥州市江刺稲瀬地区の水田やリンゴ畑地帯にあり、周囲には民家やリンゴ園も点在し、新幹線の高架橋に近接する場所に立地しており、併設する小規模多機能施設と共に運営を開始して10年目となっている。「共に向き合い、笑顔で、支え、生きる」という運営(介護)理念を、職員は常に意識して介護支援の実践に繋げることを心がけており、忙しい中でも利用者へと向き合い、会話して笑顔を引き出す取り組みが行われている。コロナ禍で様々な制限が続いている中であっても、十分な感染対策のうでお花見ドライブに出かけたり、地元高校の鹿踊りを招いたり努力を重ねている。運営推進会議には消防や警察を含む地域関係者が多く参画しており、地域交流や連携を意識する強い姿勢が窺われる。また、北上川の洪水浸水地域となっていることから、大雨災害時での早期避難の必要性を十分に認識し、職員一丸となって避難経路を確認する等、対策には万全を期している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年11月29日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

事業所名 : グループホーム ポランの広場いなせ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念については数年前、職員に募集し全体会議にて決定した。毎朝、ミーティングの最後に「共に向き合い、共に笑顔で、共に支え、共に生きる」を唱和している。今後は4本の柱を更に細かく分けて各自実行出来る様に会議等を利用して検討していく。	5年ほど前に職員が話し合い定めた理念(介護理念)を掲示し、唱和している。毎年度、理念の基に利用者同士、利用者と職員が日々取り組む具体的な計画と目標を設定し、職員皆の目線と方向性をしっかりと合わせ理念の確認共有をしながら実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症の影響で昨年度と同様、地域との交流や必要以外の面会については、制限をかけている。8/4(水)岩谷堂高等学校鹿踊り部に依頼し感染症対策を十分に取った上で施設駐車場にて踊りの披露をして頂いた。	コロナ禍のため保育所との交流やボランティアの受入れ等もできない中、8月には地元の岩谷堂高校鹿踊り部をお願いして、前庭で演舞を披露していただいたり、9月には江刺甚句のキャラバンに來訪してもらうなど、利用者を楽しませる機会を作る等の工夫を重ねている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	前年度に関しては認知症施設(グループホーム)として地域の方に施設紹介とお知らせを回覧していましたが、現在はコロナ禍の為に一時的に中止している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、昨年度と同様に運営推進会議については資料を送付し意見交換していた。中々意見が出て来ない等、推進委員の顔合わせも必要だった為に5月末に稲瀬地区センターで開催予定でしたが、奥州市介護施設にてクラスターが発生した事で資料送付の意見交換に戻した。	委員には民生委員や行政区長、地区センター長のほか、駐在所や消防署員も参加しており、地域との連携や交流を図る体制ができている。コロナ感染対策のため集合開催ができず、資料を送付し意見などを募っているが、委員からは意見や質問は出されていない。	今後、書面開催とする場合には、感想や意見、質問等を出しやすくするため、意見質問用紙を添付し、返信用封筒を同封するなどの工夫を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	災害時の避難場所の確保や日頃の運営推進委員として意見や助言を頂き非常に感謝しています。前年度から今年度にかけて新型コロナウイルス感染症の流行に伴い感染症対策として運営推進会議に関しては書面での意見交換としています。	総合支所の健康福祉課職員が参加し、日常的にも文書のやり取りや相談等で連携が図られている。一昨年のは台風の際には、避難先として総合支所2階を確保してもらったこともあり、行政との連絡体制は良好である。コロナ対策としてマスクや手袋等の配布も受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会が先立ち3ヶ月に一度定期会議を開催したり研修やアンケート調査を実施している。今年度についてもコロナ禍の為、外部講師を呼べる状況にあらざインターネット等の資料を参考に職員に提示している。又、ユーチューブ等の興味深い動画を視聴して頂き感想を提出してもらっている。	身体拘束廃止委員会は、3ヵ月毎に開催され、内容は運営推進会議でも報告されている。研修会は、職員から希望する内容を聞き出したり、ネットの動画等も活用して実施している。転倒防止のための人感センサーについては、家族から了解を得て2名が使用している。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ポランの広場いなせ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止にちなんだ内部研修を数回おこなっている。職員から利用者様への行き過ぎた声掛けや利用者様から利用者様への行き過ぎた声掛けに対して注意を払っている。発見した場合はその都度、注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援に関しては担当者会議等を交え利用者様のできる事を更に伸ばし、出来ない事をお手伝いする様に今後も支援していく。成年後見制度に関しては研修のテーマとして検討していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約の際には契約書、重要事項説明書を提示して利用者様、家族様が十分に理解できる様に時間をかけて説明し質問等にもわかりやすく答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からの意見に関しては常日頃の会話やレクリエーションでの聞き取りを生かし反映している。家族との繋がりに関してはコロナ禍の為、基本的に面会は自粛、電話対応や通院時のみ受け答えとなっている為、十分なコミュニケーションは取れていない。	家族からは利用料支払いや通院同行で来所された際に、意見等を聞き取るようにしており、利用者からは、職員が1日1回、お話をしを通して希望などを聞き出すよう努めている。江刺甚句のキャラバンの皆さんに利用者代表から感謝の言葉を述べていただいた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議やミーティング等において職員からの提案を受け入れ改善できる案件に関しては施設運営に反映している。(一例として夏季の早番の30分前倒し対応)	毎朝のミーティングや毎月の職員会議等の場に限らず、年に2回行われる管理者と職員との個別面談の際に、職員から意見が多く出されている。今年の高校の鹿踊りの披露などは職員から提案されたものである。使用車両へのドライブレコーダー設置も提案され、早速実現されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員には年2回の自己評価をしてもらっている。資質向上計画にのっとり個人の意識向上に努めていただいている。管理者は職員の努力や勤務状況を把握し報酬に繋げている。職場環境の整備については会議等やミーティング等で出た意見を参考に変更出来る点については随時変更している。		

事業所名 : グループホーム ポランの広場いなせ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍の為、講師を外部から呼び、施設内で開催する研修は自粛している。ズーム研修のお知らせを頂くが施設として参加できる人数に限りがある為に実施未である。内部研修に切り替えている。アンケート調査を実施したりインターネットを活用し資料を提供したり動画を視聴している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	いわて地域密着サービス協会の活動として研修や会議の開催を予定していたが新型コロナウイルス感染症の蔓延防止の為、ことごとく中止となった。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には利用者様との個人面談を実施し本人のお話を傾聴するだけでは無く出来るだけ分かりやすい様に説明している。知り得た内容については担当者会議にて提示しケアプランに反映する事で職員一人ひとりに周知している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前には面談を実施している。現在、家族様が本人の事で困っている事、今後望む事、申し送りして置きたい内容を伺い、今後のサービス提供に反映出来る様に心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前には利用者様、家族様が現在、必要とされているサービス内容を見極め提案、検討し決定している。尚、状態変化がみられた場合には随時、家族様と連絡を取り合い対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事業所の介護理念(共に向き合い、共に笑顔で、共に支え、共に生きる)を念頭に置きグループホームという共同生活の場所でお互いを尊重しながら信頼関係の構築に務めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の為、現在も面会制限をかけており唯一、通院時が数少ない面会の場となっている。通院の際、職員は利用者様の日常生活の変化を家族様に伝える事で情報を共有する事が出来る。又、変化した内容に関して対応出来る。		

事業所名 : グループホーム ポランの広場いなせ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今後も家族様、知人との繋がりが保てる様に面会、外出、外泊等を利用して頂きたいと思えます。昨年から新型コロナウイルス感染症の感染防止の為、一時的に面会、外出、外泊の自粛をお願いしている。	この1年間で出来なかった家族等との面会も行えるよう準備を進めている。殆どの利用者の馴染みの関係は、家族となる中、訪問してくれる理・美容院の方と新たな馴染みとなった利用者もいる。また、お盆の時期等には墓参りに家族が連れて行ってくれる方もいる。職員も馴染みの関係が維持継続出来るよう、寄り添いを深めたいとしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の相互関係やADL状態変化等を考慮し座席を決めている。年に数回、席替えをして他の利用者との交流が出来る様に支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても今まで構築した関係を大切にしている。又、今後の相談についても対応できる様に心掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃より利用者様一人一人と向き合い本人の意向を把握出来る様に努力している。(共有空間等にて利用者様、個々の意見の相違が生じた場合には職員が仲に入り両人に対し平等に対応出来る様に努めている。)	利用者からの思いや意向などの聞き取りについて、特に今年目標として、1日1回は、職員が利用者に向きあって話し合う時間を持つことに取り組んでいる。その中で、塗り絵に取り組みたいという意向を聞き取り、その希望に沿った支援につなげた例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネより新規利用者様の事前情報として職員に情報提供を行っている。利用開始してからは日常会話などで知り得た情報を会議などを利用し全員に周知している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の経過観察については支援経過表に記入し記録として残している。又、朝夕のミーティングや職員会議、居室担当者会議等を利用して報告、改善、周知に努めている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ポランの広場いなせ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	コロナ禍の為に面会制限をかけている。電話や通院等で来所された際に本人の状態、日常生活での出来事を伝えたり、それに対しての家族様の意向を伺っている。利用者様の日常生活で知り得た内容や家族様の意向をミーティングや担当者会議にて報告しモニタリングを重ね介護計画を作成している。	入居後間もなくは暫定的なプランで支援を行いながら、約3か月後には居室担当者とケアマネがプランの原案を作成し、職員カンファレンスにおいてケアプランを検討のうえ決定している。モニタリングは居室担当が随時行うこととしており、見直しは6か月毎が多くなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の日々の様子を支援経過表に記録しミーティング等で報告している。又、知り得た内容についてはミーティングや担当者会議にて報告しモニタリングを重ね介護計画を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに対して柔軟なサービスが出来る様に会議を利用する等、職員一同取り組んでいる。(日頃の日常会話や家族様の意向を傾聴している。)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、地域行事への参加を自粛している。8月4日の夏祭りの際、施設駐車場内にて感染症対策を十分に取っ県立岩谷堂高等学校鹿踊り部の皆さんの踊りを披露して頂いた。利用者様は涙を流して喜ぶ方も有り好評でした。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に定期受診については家族様にお願いしている。家族様の都合が悪く対応出来ない場合には施設対応をしている。通院の際、気になる状態変化については主治医に報告し適切な医療を受けられる様に心掛けている。	入居前からの医師をかかりつけ医としており、変更はない。受診同行は、基本、家族とし受診には情報提供書を家族が持参している。やむを得ない事情の方には、職員の同行にも配慮している。普段の健康管理は、隣接の施設の看護師の協力を得て対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日常生活で知り得た内容を記録しミーティング等で全体に報告し情報を共有している。又、個々の体調変化についても看護師と連絡を密に取り緊急時でも対応出来る様に心掛けている。		

事業所名 : グループホーム ポランの広場いなせ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院の際には家族様、医療連携室と連絡を密に取り利用者様の情報を共有している。又、入院中や退院する際の医療カンファにも家族様と同席する事で利用者様が安心して生活出来る様に支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に当事業所は重度化や終末期(みとり)についての説明を行い家族様には御理解を頂いている。又、終末期に近づき重度化されつつある利用者様に関してはみとり行っている施設等の紹介をしたり利用者様、家族様に負担を掛けない様に支援している。介護度の変化に伴い特養への申し込みもお願いしている。	入居の際に、重度化や終末期の対応について、本人や家族等に説明し理解を得ている。ホームとして、看取りの取り組みは行っておらず、重度化して介護度3以上となった場合、かかりつけ医や家族等と話し合い、近隣の特養施設等への住み替えとなる例が多くなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	誰もが確認出来る場所に事故発生対応マニュアルを掲示し速やかに対応出来る様にしている。又、定期的に応急手当や初期対応の訓練(心配蘇生法)の習得について消防署に講習を依頼し実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ禍の為、地域全体の水害を想定した避難訓練は中止となっている。施設独自の水害を想定した避難訓練に関しては9/29(水)実施している。又、火災を想定した避難訓練については6/23(水)10/20(水)年2回実施している。	ハザードマップでは北上川の浸水地域となっており、一昨年の台風12号の際には江刺総合支所の2階に避難し1泊した経験が、良い体験となっている。火災による避難訓練も年2回定例実施されており、近隣の協力体制については今後の課題としている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束廃止委員会が先立ち声掛けについての資料提供や教育訓練を実施している。又、手の空いている時間やレクリエーションの時間等を利用して利用者様とのコミュニケーションを取る様に支援している。	ホームでの暮らしは、本人本位を基本とし可能な限り利用者個々の思いや意向、もてる力に配慮して対応し、過度なサポートはしないように心がけている。声かけは「さん付け」として、居室には、必ず了解を得てから入室するなどプライバシーと尊厳に心配りしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションの中で利用者様とのコミュニケーションを取ったり本人の好きな事、嫌いな事等を聞き取り個々の希望や生きがいを見つけ出せるように支援している。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ポランの広場いなせ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設生活の中で利用者様個々の生活リズムを考慮しマイペースで生活出来る様に柔軟支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪希望をお伺いし訪問理容日に散髪して頂いている。ご自分で自由に着替えが出来る様に自室のタンスに衣類等を保管している。出来ない方に関してはこちらからお手伝いをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の食事に関しては施設で準備し提供している。月のレクリエーションで特別食やおやつを提供する際には準備から調理まで職員と一緒にいる事もある。	職員はご飯とみそ汁を作り、副食は外注品を温めて提供するが、朝食には1品副食を職員が追加調理して提供している。利用者の嗜好は、ある程度献立に反映出来ている。利用者は、干し柿の皮むきやテーブル拭き、下膳等を手伝っており、また、レクリエーションとしてお好み焼きやヤキソバを職員と一緒に作って楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	おかずに関しては外部業者に委託し栄養バランスを管理して頂いている。水分補給についても主治医と相談して個々の水分量を決めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に職員の見守りの中で口腔ケアを行って頂いている。介助の必要な方に関しては一部介助、全介助も行っている。又、口腔ケア中等に異常がみられた場合には家族様へ連絡し歯科受診をお願いしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表に排泄の記号(○⇒排尿、●⇒尿失禁、△⇒自立排便、▲⇒便失禁)を決め量や状態の記入をしている。又、個々の排泄状況を見極め紙パンツから布パンツ、布パンツから紙パンツに変更する等その方の状態変化に対応している。	排泄チェック表を基にして、適時の声掛けと誘導を行っており、昼夜に関わらず利用者はトイレでの排泄が出来ている。在宅での状況から大きく改善している利用者も多く、利用者だけではなく家族からも喜ばれ、ケアに当たる職員の大きな達成感につながっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を記入して個々の排尿、排便状況の把握に努めている。定期的なテレビ体操や運動量の少ない方には簡単なお手伝い等をして頂き少しでも体を動かして排泄を促す様に努めている。又、個々の定期的な水分補給に努めている。		



令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ポランの広場いなせ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週の入浴日に関しては基本的に施設で決めているが、入浴前には必ず本人に意思確認をしている。又、不穏状態、外出、受診等で入浴できない場合は曜日、時間をずらすなどして柔軟に対応している。	入浴前には必ず本人に意思確認するほか、不穏状態や外出、受診等で入浴できない場合は曜日、時間を変更する等柔軟に対応している。ホームの一般浴槽だけでなく、併設の小規模多機能施設の大きな浴槽を利用し同性介助に配慮し週2回を基本として入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活リズムに合わせ居室に戻り休息を取ってもらっている。又、日中に傾眠されている時等は声掛けして居室誘導する事もある。長時間、椅子に座っている方等にはむくみ防止の為、長座位やベットで横になって頂いたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様別の処方箋一覧を作成し用途、副作用を誰でも職員が確認出来る様にしている。薬の準備や服用する際には職員同士で薬のダブルチェックをする事で誤薬の防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	写経や塗り絵等、個々の趣味や手指活動を絶やさず支援できるように努めている。又、個人が今までつちかった来た内容や日常生活での自立度が失われない様に出来る事は職員の見守りの中で行って頂いたりする事で本人の自立支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、利用者様の外泊に関しては基本的に自粛して頂いている。又、外出については多人数との接触がない限り家族様をお願いして頂いている。戸外の催しへの参加者についても現在は自粛している為、その分を施設内レクリエーション強化に努めている。	コロナ禍の影響を大きく受けて、外出機会が減っているが、それでも感染対策を行いながら、お花見や紫陽花見物のドライブを行っている。また、近所の散歩に出かけたり、施設外での日光浴を楽しむようにしている。また、体操やゲームなどホーム内でのレクリエーションをさまざま工夫しながら、ストレスの解消につなげている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の価値観を忘れない様、レクリエーションの中で実際に使って頂いたりしている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ポランの広場いなせ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	知人からの電話対応等については事前に家族様を通じて施設に連絡を頂いている。又、本人様から家族様に対して電話の訴えがあった場合には時間帯を考慮してお話し出来る様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員は利用者様が共有している空間の(温度、匂い、音、光、広さ)等を常に気にして調整している。又、ホール内には季節感を失わない様に季節の貼り絵や行事写真等を掲示している。	共有ホールは、天井が高く、窓からは温かい光が差し込み、適温管理される中、利用者は体操やゲーム等を楽しみながら、ゆったりのんびり過ごしている。壁には、利用者の手作り作品(切り絵や貼り絵)やレクの写真が綺麗に飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小規模多機能ホームとグループホームが併設されている事も有り食堂、ホールも隣設している。両方は常に解放されている為、好きな時に行き来されたりお話しされたり利用者様の自由空間として活用されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は基本的に一人部屋を提供している。個人での偏りが有りますが、今までの生活で使い慣れた物、思い出の写真等を居室内に置いたり掲示して本人が安心して過ごせる様に工夫している。	居室にはベッドとエアコン、パネルヒーター、小箆箆等が備付けられ、利用者は使い慣れた馴染みのテレビやミニテーブル、机やイスなどをそれぞれに持ち込んでいる。手作りの折り紙作品や家族写真、行事の写真などを思い思いの場所に飾り、居心地良い空間としている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ等に名前を表示している。又、利用者様が混乱しない様に居室からトイレまで矢印で表示したりトイレ内には手すりを設置し安全な空間作りに努めている。		